

第 1 回絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律あり方検討会（2016.6.16）

「絶滅危惧昆虫の現状と課題 主にチョウ類を例として」

矢後 勝也（東京大学総合研究博物館）

1) 国内における絶滅危惧チョウ類

・絶滅危惧チョウ種の推移

	平成 12 年	平成 24 年（平成 27 年）
絶滅危惧 I 類	9 種 2 亜種	17 種 13 亜種
絶滅危惧 II 類	17 種 4 亜種	10 種 6 亜種
準絶滅危惧	30 種 2 亜種	34 種 9 亜種
合計	56 種 8 亜種	61 種 28 亜種

・主なチョウ種の減少要因

環境破壊や薬剤散布

生活形態（農業形態）の変化

地球温暖化の影響

外来生物の影響

害獣による食害（過剰菜食） etc.

2) 生活形態（農業形態）の変化による減少

・激減した草原性チョウ類の例

ヒョウモンモドキ（2011 年・国内希少野生動植物種指定） 生息環境復元

オオウラギンヒョウモン

ウスイロヒョウモンモドキ（2016 年・国内希少野生動植物種指定）

オオルリシジミ 裏取引の現場（ネットオークション）

3) 地球温暖化の影響による減少

・高山チョウや分布が局限されたチョウ（100 年後に少なくとも 22 種が絶滅 / 全体の約 10%）

・ヒメチャマダラセセリの例（北海道アポイ岳）

4) 外来生物の影響による減少

・グリーンアノールの捕食や外来植物の食樹被陰

オガサワラシジミ（2008 年・国内希少野生動植物種指定） 生息環境復元

オガサワラセセリ

5) 害獣の食害（過剰菜食）による減少

・ツシマウラボシシジミの例（対馬） 生息環境復元と域外保全

- ・ ウスイロヒョウモンモドキの例

6) 現状の「種の保存法」での課題

- ・ 指定種（亜種）の採用する和名や学名表示に関する点
- ・ 過去の標本にも譲渡・売買に強い制限が加わる点
- ・ 標本の譲渡（寄贈先）として、国または地方公共団体の機関（公共の博物館等）のみを推奨している点
- ・ 国内希少野生動植物種の海外産の扱いに関する点

ただし、「種の保存法」が目指す絶滅危惧種の実効性ある保全は、これまでの文化財保護法や地方公共団体の条例による「天然記念物」指定のように、「指定したら終わり」ではなく、効果的かつ計画的に希少種の絶滅を防ごうとする点は高く評価できる。